

●
関連する「つまずきポイント」

⑤文章からキーワードを見つけること

読むこと領域

論理の展開や場面の設定の仕方をとらえて「読む」こと

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

宝塚市立南ひばりガ丘中学校の実践

第3学年 論理の展開の仕方を意図的に読み取り、内容の理解に役立てよう

第2学年 例示の配列を推論することで文章展開の効果を考えよう

第1学年 論説文を再構成し、本文の要旨をつかもう

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
第3学年	文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、理論の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	文章全体と部分の関係、例示の効果を考え、内容の理解に役立てること。	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。	段落ごとの内容や段落相互の関係を考えながら読むことができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

① 論説文を根拠に基づき再構成させることで、段落相互の関係を考えさせる。

→バラバラに提示された段落を「序論」「本論」「結論」と再構成し、グループで根拠となる仮説を立てることにより、接続詞やキーワードに注目したり、段落相互の関係を考えられるようになる。

② 例示の配列を考えることで文章展開の効果を考えさせる。

→例示の配列は筆者の論理の展開の意図に直接つながる部分である。根拠をもってその配列を考えさせることにより、筆者の意図を推測する態度が身に付く。

③ 「本論」から「結論」の展開を意図的に読み取り、内容の理解に役立てる。

→「本論」から「結論」の展開を考え推測し発表し合うことで、互いの仮説を比べることができ、筆者の論理の展開の仕方や効果を内容の理解に役立てることができる。

読むこと①

第1学年

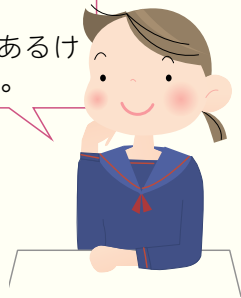
論説文を再構成し、本文の要旨をつかもう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

②③①の順序で並べるといいんじゃないの？
順序なんて関係ある？
小学校の時にやったことあるけど、あまり覚えてないなあ。



出典「自分だけの宝物」

③ 他人から見たら紙切れだけど、僕にとっては大切なもの。

② 賞状はうれしさを思い出させてくれる。

① 一つの賞状アルバム

問 次の文章を段落の内容を考え、並べなさい。

実践の概要

単元名

わかりやすく伝える

『ペンギンの防寒具』三省堂

目標 段落相互の関係を考えて読むこと。

- 内容
- ・「本論」→「結論」→「序論」の順序に本文を提示し、本文を再構成する。
 - ・順序の根拠をグループで交流させ、1つの仮説を立てる。
 - ・本来の本文の順序を提示し、筆者の考えをグループで推論する。
 - ・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- ・順序の根拠をグループで交流し、仮説を立てていく中で、キーワードに注目することや、段落相互の関係を考えられるようになる。
- ・習った形式で作文を書かせることにより、筆者の意図に近付き論説文の構成を学び、読解力を身に付ける。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

★主体的な学びにつながる実践

段落の順序を変えた文章を提示し、正しい順序の根拠を考え、グループで交流させる。

活動のねらい▶ キーワードや、段落相互の関係を手立てに構成を考える。

ここがポイント

本文の順序の根拠をグループで交流し、正しい順序について仮説を考えさせることにより、段落相互の関係を深く読み取ろうとする態度が身に付く。また、相互の関係を読み取るときに、キーワードを根拠として仮説を立てていくので、論理的な読みに近づく。

構成順序についての検討



この文が、筆者の一番言いたいことのはず。ということは、ここが結論じゃないかな。

本論でも、この段落は話の展開をしている内容になるな。

順序を表す言葉を手がかりにするとわかりやすいぞ。

(期待される生徒の姿)

- グループで考えを比較したりまとめたりすることを通して、根拠が整理される。
- 自分達で構成の配列を考えた後に本文の学習を行うことで、課題解決に向けた見通しをもつことができ、主体的な学びにつながる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

習った説明文の形式を使って作文を書かせる。

活動のねらい▶ 筆者のものの見方やとらえ方の追体験を通して、論理的な文章の構成を理解し、読解力を高める。

ここがポイント

筆者の論理の展開を模倣して生活作文を書かせることにより、筆者の工夫、ものの見方やとらえ方を知ることにつながる。そうして追体験させていくことで、筆者の意図に気付き、読解力を高めることができる。

説明文の形式を活用した作文メモ

【作文メモ】
題名「山登りの達成感」
序論 うれしさのしくみ
本論1 仲間との絆
本論2 自分に対する自信
本論3 頂上の景色
結論
• 仲間との絆
• 自信
• 壮大な景色
を味わうことによって達成感を感じている。

(期待される生徒の姿)

筆者の論理の展開を模倣することにより、段落ごとの内容や段落相互の関係をより深く考えられるようになる。

第2学年

読むこと①

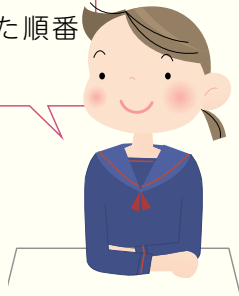
例示の配列を推論することで文章展開の効果を考えよう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。

本論の具体例の順番が何かに関係あるの？
筆者が思いついた順番じゃないの？



「水田のしくみを探る」岡崎穂より

③ 水資源の確保

② 災害を防ぐ

① 連作障害を防ぐ

問 水田を土で作る長所についてなぜその順番で筆者は配列を考えたのか。自分の考えを答えなさい。

実践の概要

単元名 分析的に考える

『動物園でできること』三省堂

目標 「本論」で書かれてある例示について考え、自分なりの根拠をもつ。

- 内容
- ・「本論」の例示を別々に提示し、根拠をもとに配列を考える。(個人で)
 - ・グループで意見を交流することで筆者の論理の展開を推論し、仮説を立てる。
 - ・筆者の配列を知り、自分たちの仮説と比較する。
 - ・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- ・「個人」で根拠をもち、「グループ」で意見を比べて推論するという順序で活動することで、筆者の論理の展開や意図を考えられるようになる。
- ・「例示」の配列を意識して作文を書くことにより、例示が主張を支える大きな根拠になっていると気付くことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

「本論」の例示を別々に提示し、グループで意見を交流しながら筆者の論理の展開を推論し、正しい配列について根拠をもとに仮説を立てさせる。

活動のねらい▶ ・それぞれの根拠を出し合い、比較したりまとめたりしていく中で論理的な読みを深める。

ここが
ポイント

個人の意見（パーツ）をグループで集め、比較したりまとめたりしていくことが、筆者の論理の展開を推論することにつながる。ここでしっかりと仮説を立てておくことで、次の段階で筆者の意図を考える大きな手立てになる。

論理の展開を推論する



「野生生物の魅力を引き出した
い」という筆者の思いに照らし
合わせて3つの例示を比較して
みると…。

(期待される生徒の姿)

個人の意見を比較したりまとめたりすることにより、論理の展開を推論することができる。また、内容・形式ともに注目することで、前後の段落から根拠を見つけ出す姿勢が生まれる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

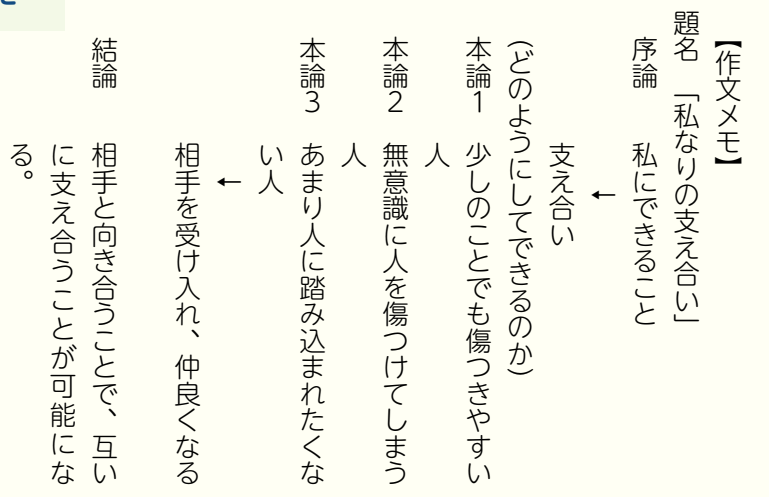
教科書で学習した説明文の形式を用いて作文を書かせる。

活動のねらい▶ ・筆者の論理の展開を模倣することにより、筆者のものの見方やとらえ方の追体験をする。

ここが
ポイント

筆者の論理の展開を模倣し生活作文を書くことにより、筆者の見方や意図を知ることにつながる。今回は特に「本論」の例示の配列に意識をさせることで、例示が筆者の主張を支える大きな根拠になっていることに気付かせる。

作文メモ



(期待される生徒の姿)

「本論」の例示を配列することにより、どのような説得力をもたらしているのか検討する。同じ例示でも並べ方によって効果が変わることを経験できる。

読むこと①

第3学年

論理の展開の仕方を意図的に読み取り、内容の理解に役立てよう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。

最後の行に「開発」とあるので、「開発」という観点でとらえているんじゃないかな？



4	3	2	1
生物の卵や種の仕組みを、人間が行う包装という観点でとらえている。(67.9%)	生物の卵や種の包み方の違いを、人間の呼吸という観点でとらえている。(5.8%)	生物の卵や種の栄養を、商品の品質という観点でとらえている。(9.8%)	生物の卵や種の成長を、開発の仕組みという観点でとらえている。(16.0%)

自然界には優れた「包装」がたくさんあります。
(中略)
商品の包装には、自身の品質を守る役割とともに、様々な優れた機能を持たせようという工夫がなされています。品質の保護性と同時に、使いやすい簡便性や美しいデザインの快適性などがこれに相当します。生物が持つ様々な優れた機能は、新しい包装の手法になるものが含まれており、これらを参考に優れた新しい機能を持った包材が開発できるかもしれません。

平成二十八年度
全国学力・学習状況調査国語A⑥
この文章について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

実践の概要

単元名 学びの扉をひらく

『問の文化』三省堂

目標 文章の構成や展開をとらえ、内容の理解ができるようにする。

- 内容
- ・「本論」の例示だけを提示し、例示から「結論」を推測する。
 - ・「本論」→「結論」の展開を考え、仮説を個人で立て発表する。
 - ・筆者の論理の展開とグループの仮説を比較検討する。
 - ・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- ・「本論」から「結論」の展開を考え仮説を立て、発表することで、自分と友達のことを比較し内容の理解が深まるようになる。
- ・筆者の論理の展開を模倣することで、論理の展開を意図的に読み取れるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

「本論」の例示のみを提示し、そこから「結論」の内容を推測し、仮説を立て発表させる。

活動のねらい▶ ・友達の仮説と比べることで、整合性のとれた展開を考える力を身に付ける。

ここが
ポイント

2年時に学習した例示の配列の方法を想起させ、「本論」から「結論」の内容を推測させる。「結論」は多種多様に出てくるが、「序論」との整合性も考えなければならず、論理の展開を意識して「結論」を考える姿勢を身に付けていくことにつながる。

結論を推測する

日本文化と西洋文化を比較して見えてきたことが、結論になるんじゃないかな。



空間的な間、時間的な間、心理的な間について比較して、共通することが結論につながっているということか。

(期待される生徒の姿)

「序論」－「本論」と整合性がある「結論」になっているかを意識的に考え友達の発表を聞くことで、論理の展開を考える力が身に付く。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

筆者の論理の展開を模倣し生活作文を書かせる。

活動のねらい▶ ・筆者の論理の展開を模倣することにより、筆者のものの見方やとらえ方の追体験をする。

ここが
ポイント

- ・「本論」から「結論」の展開を意識して書くことで、文章が論理的にわかりやすくなることを理解する。
- ・良い作品を全体で交流することにより、さらに論理の展開の意図を読み取ろうとする態度が身に付く。

生活作文

結論は「貢献」ね

文武両道という
まとめ方か？

貴校で充実した三年間を過ごしたいと思っている。どのような三年間にしたいか具体的にいうと大きく分けて二つある。

まずは、本物に触れる機会に積極的にチャレンジし、自分自身の視野を広げていきたい。JAXAの阪本さんの講義に特に興味がある。日本を支えている人の価値観や考え方にふれて、私自身も将来貢献できる志をもちたい。また、そんな活動してみたい。

次に、野球部の厳しい練習の中で、多くの仲間と共に毎日精一杯汗を流し、上位を目指していきたい。中学校に来ていただいたり、オーブンスクールで感じた先輩方の礼儀正しくはつらつとした姿はまさに私の理想の姿だった。そんな先輩やこれから出会う仲間と互いに磨き合い戦績だけでなく人間としても向上していきたい。

このように、高いレベルでの文武両道を行うことで、充実した三年間に行うことができるはずである。

そして将来は貴校に貢献できるような人間になっていきたいと考えている。

(期待される生徒の姿) ものの見方や考え方を伝えるために、論理の展開にどのような意図があるのかを、読み取れるようになる。